

男女共同参画の視点からの防災

事例集

事例8	既存の防災セミナーと連動した女性向け防災セミナーの実施①	三重県 四日市市
<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の防災リーダー育成のため、既存の防災セミナーと連動する形で女性限定の防災セミナーを実施。 ・自主防災組織とセミナー受講者間でネットワークが形成され、セミナー修了者が地域の防災活動に参画しやすくなった。 ・地域の防災における男女共同参画の理解が促進し、セミナー修了者も含め、市と自治会連合会・地区防災組織が共同で男女共同参画の視点からの避難所運営マニュアルを作成。 		
<p>【経緯】</p> <p>既存の防災訓練や講座の参加者が高齢男性等、一部の人のみで、マンネリ化。</p> <p>⇒地域の防災力の底上げのため、女性も含め、幅広い層に防災について興味・関心を持ってもらい、防災活動に取り組んでもらう必要があった。</p> <p>東日本大震災の際に避難所等で生じた課題から、防災における男女共同参画の重要性を認識し、有識者等による講座を単発で実施していた。</p> <p>⇒平成25年5月に内閣府が作成した「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針」を踏まえ、女性向けの防災啓発セミナーを開催を検討。</p> <p>セミナーを受講するのみで終わることのないよう、受講後に実際に地域の防災活動で活躍できるように、既存の防災セミナーと連携して実施。</p>		
<p>平成28年3月現在</p>		

既存の防災セミナーと女性向けのセミナーを連動して実施することにより、女性リーダーの育成や地域全体の防災における男女共同参画を推進した三重県四日市市の事例です。

まず、取組の概要を説明します。

【ポイント】

- ✓ 既存の防災セミナーと連動した女性限定のセミナーを実施。
- ✓ 連動したセミナーであるため、両セミナーの受講者間でネットワークができ、地域で行われる防災活動等に女性が積極的に参加できるようになりました。
- ✓ 結果、自治会連合会から男女共同参画の視点からの避難所運営マニュアル作成の要望が出され、セミナーを修了した女性や自治会連合会、地区防災組織、専門家と協力しながら男女共同参画の視点からの避難所運営マニュアルを作成しています。

次に、取組の経緯に説明します。

【ポイント】

- ✓ 既存の防災セミナーや訓練の参加者は、高齢男性等が中心の一部の人に限り、マンネリ化していました。
- ✓ 様々な層に防災に関心を持ってもらう必要があり、東日本大震災での男女共同参画の視点からの課題が生じていたこともあり、女性向けの防災啓発セミナーの開催を検討しました。
- ✓ セミナーを受けてもらうことだけでなく、実際に地域防災に女性が参加していくことを目的としていたことから、実際に地域防災を行っている層とのネットワーク化のため、既存の防災セミナーと連動して行うこととしました。

事例8	既存の防災セミナーと連動した女性向け防災セミナーの実施②	三重県 四日市市
<p style="text-align: center;">女性セミナー</p> <p>防災・減災女性セミナー（H25～） 主催）市危機管理室・男女共同参画課</p> <p>目的：地域の防災・減災活動に女性の視点がなぜ大切かを学び、地域の防災・減災活動に積極的に参加したいと考えている女性のきっかけとする。</p> <p>募集人員：30名程度 受講対象：講座修了後、各地区の防災・減災活動に積極的に参画する女性（推薦等は不要。）</p> <p>講座回数：13回/年 これまでの修了者は51名（3年間）</p>	<p style="text-align: center;">既存セミナー</p> <p>四日市市防災大学（H17～） 主催）市危機管理室</p> <p>目的：大規模災害の発生に備え、地域住民が「自助」「共助」の観点から防災・について学習し、地域防災力の底上げを行う。</p> <p>募集人員：50名程度 受講対象：地域の自主防災組織からの推薦を受け、地域の防災・減災活動に継続的に活動する意思のある者（各組織2・3名）</p> <p>講座回数：18回/年</p>	
<p style="text-align: center;">講座の大半が合同開催 両セミナーとも講義・ワークショップが中心</p> <p style="text-align: center; font-size: small;">※その他、家族(子ども)向けのファミリー講座や、発展的な内容のステップアップ講座も開設。</p>		

女性セミナーと既存セミナーの概要を説明します。

【ポイント】

- ✓ 女性セミナーは、興味はあるもののなかなか一歩を踏み出せない女性が地域の防災・減災活動に参加できるきっかけとなることを大きな目標として掲げています。
- ✓ 既存セミナーも、単に研修を受けて終わるだけでなく、実際に地域の自主防災組織での活動に活かしてもらうことをねらって、自主防災組織からの推薦を受けることを受講の条件としています。
- ✓ 両セミナーの講座の大半は合同で行われ、ワークショップ等では両セミナーの受講者が共にワークに取り組むようにしています。

【取組のポイント】

既存セミナーとの連動

- ・ 合同で行うワークショップでは同地区の男性と女性が同じグループになるように配置
⇒ 既存セミナーと女性セミナーの受講者が顔の見える関係に。
- ・ 女性セミナーの修了者名簿を地区防災組織や地区市民センターに提供
⇒ 地区防災組織等の防災活動に、女性セミナーを修了した女性が参画しやすくなった。

講座内容の工夫

- ・ 女性セミナー：体験型の講座を多く実施。
⇒ 防災活動の実際を具体的にイメージできるように。
(例：地震体験車の乗車や備蓄資機材（発電機等）を実際に使用する等)
- ・ 既存セミナー：序盤の講座に男女共同参画の視点からの講座を実施。
⇒ 女性が防災活動を担う意義に対する理解を促進。

自治会連合会の活動

- ・ 女性の視点を取り入れた防災セミナーを開催。
(平成25年度から3年間で、28地区のうち17地区で実施し、今後も継続)

地域の防災活動でセミナー修了女性が活躍
(女性セミナー修了者が地域の防災活動へ参画しやすい環境づくり)

取組のポイントを説明します。

【ポイント】

- ✓ 既存セミナーと合同で行うことにより、同地区の自主防災組織の男性と受講女性が顔の見える関係になっています。
- ✓ その結果、セミナー修了者が地区の自主防災組織の開催する防災活動等に積極的に参加しやすくなり、自主防災組織側からも、セミナー修了者に声をかけることができるようになったことから、防災活動等に女性が参加しやすくなっています。
- ✓ 講座内容については、女性向けには実際の地域の防災活動がイメージできるように防災倉庫で備蓄している発電機を実際に動かしてみたり、地震体験車に乗車してみたりと、体験型の講座を増やし、既存セミナーにあっては、序盤の講座で防災と男女共同参画について学ぶことにより、男性にとって女性が防災活動の担い手になる必要性や意義について理解が生まれるような仕組みを作っています。
- ✓ また、地区での男女共同参画の理解を深めるために、自治会連合会の活動として、女性の視点を取り入れた防災セミナーを開催しています。平成25年度から3年間で、市内28地区のうち17地区で実施し、今後も継続して男女共同参画の大切さを周知していきます。

その結果、地区での理解が深まってきており、女性セミナー修了者の地域の防災活動への参画が進みやすい環境が形成されています。

取組により得られた効果

- ・地域防災の現場で活躍できる女性の増加
- ・さまざまなネットワークの構築
⇒自主防災組織とセミナー修了女性間のネットワーク
⇒女性同士のネットワーク（修了女性が友人を伴って次年度も受講する等）
- ・地域全体での防災における男女共同参画に対する理解の促進



地域の自治会連合会から、**男女共同参画の視点からの避難所運営の手引き**作成の要望があり、市との協働で作成（平成28年2月）

男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営の手引き（平成28年2月作成）

- ・セミナー受講者、専門家等からなるワーキンググループ（全員女性）を発足し、内容を協議。
- ・市内全自治会及び全地区防災組織、防災セミナーや市の出前講座（約100回/年）、学校等避難所となる施設等に配布。
- ・初版は5,000部を作成。（増刷中）

更なる効果として...



- ・地域での男女共同参画の視点についての教科書的な存在に。
- ・各地区で作成される避難所運営マニュアルに男女共同参画の視点が導入。
- ・学校を中心とした避難所となる施設における防災と男女共同参画の視点に対する理解の促進。

男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営の手引き

<http://bousai2.city.yokkaichi.mie.jp/home/doc/hinansyouneinotobiki.pdf>

四日市市危機管理室 059-354-8119

kikikanri@city.yokkaichi.mie.jp

取組によって得られた効果・メリットを説明します。

【ポイント】

- ✓ 実際に地域防災の現場で活躍する女性が増えています。
- ✓ 両セミナーの受講者間のネットワークの構築はもとより、女性セミナー修了者が次年度に友人を連れてきて一緒に受講する等、女性の参画がさらに進むような女性同士のネットワークも構築されています。
- ✓ 男性も女性も、女性が防災活動に参加する意義について理解が醸成されたことから、自治会連合会からの要望で男女共同参画の視点からの避難所運営マニュアルを作成してほしいとの要望が出てくるほど、地域全体での防災における男女共同参画に対する理解が進んでいます。

【避難所運営マニュアルについて】

- ✓ 市の危機管理担当課、自治会連合会、セミナー受講者や専門家（セミナーの講師等）からなるワーキンググループを発足し、年3回の検討会を経てマニュアルを作成。
- ✓ マニュアルは全ての自治会・地区防災組織に配布するとともに、学校など避難所となる施設や前述の防災セミナー受講者、市が独自で年間100回程度行う出前講座の際などに配布予定。初版の5,000部はほぼ関係者に配布され、今後増刷を予定しています。
- ✓ 配布した結果、地域で男女共同参画と防災の関係を説明する教科書代わりの存在として利用されたり、避難所となる学校などでも、防災と男女共同参画についての議論が行われるようになるなど、更に地域での防災と男女共同参画の理解が促進されていきます。